

08年度 事業報告書

(2008年4月1日～2009年3月31日)

[はじめに]

インターナショナルは、宗教・信条、体質的な理由で食事規制をもつ人たちでも「自分で食べるものを自分で選べる環境」をつくることを通して、様々な文化を持つ人が互いの違いを認め合い、共生できる、「食を通した多文化共生社会の実現」を目指し、事業を展開しています。2008年度は事業を進めるとともに、翌年度の法人化を見据えて団体のミッションを再確認し、NPOとして「社会にインパクトを与える活動」を行うことを目指して活動の拠点を拡大するなどの変化を迎えた年でもありました。

■2008年度の事業概要

1)「誰でも選べる」食の環境づくり

宗教や信条、体質の理由で「食べられるもの」がある人でも、「自分の食べられるもの」を選べる環境つくるため、イベントや飲食店などにおいて原材料表示の普及に取り組みました。原材料表示や出店を行ったイベントは9件で、関西地域を中心に原材料のピクトグラム(絵文字)表示が広まりつつあります。

2)「食から考える多文化共生」のための啓発活動

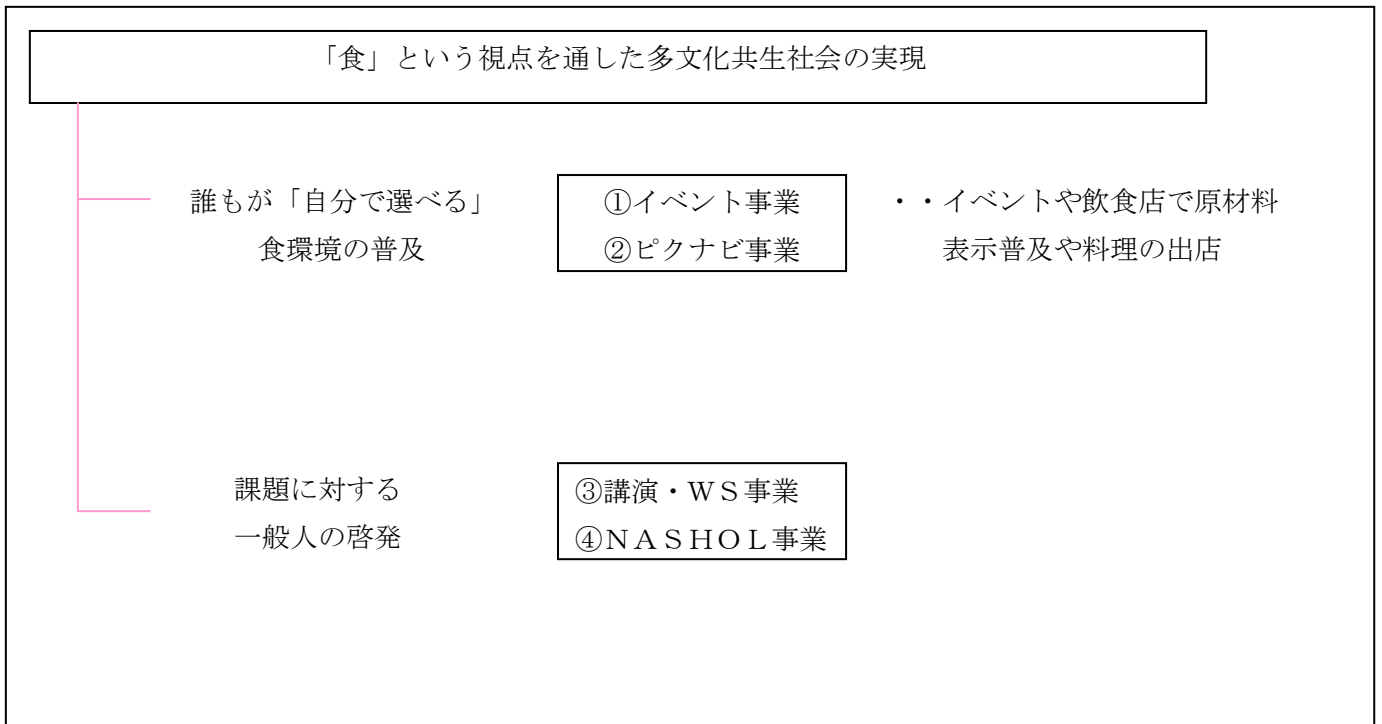
「インターナショナルが解決を目指している社会課題の存在を、どのように一般の人たちに認識してもらうか」を考え、その方法としてのオリジナルワークショップ16件と地域に根差したフリーペーパーを発行しました。オリジナルワークショップは新たに小学校でも実施し、依頼を受ける対象の幅が広がっています。また、フリーペーパーは地域に根差した内容と団体が解決を目指す社会課題を盛り込んだことから、話題と好評を得ながら啓発活動を行うことができました。

3)ネットワーク拡大と知識拡充のための勉強会

インターナショナルが解決の対象としている課題を抱える人達(当事者)とのネットワークの形成と、スタッフの知識拡充を目的とし、約2カ月に1回の勉強会を開催しました。勉強会では、実際に食事規制をもちながら日本で生活している人達を招待し、生活の様子を聞くことで、団体の事業に対し当事者の意見を迅速に反映する仕組みをつくりました。

1-1. 2008 年度事業組織図

2008 年度のインターナショナル事業組織図は、以下のようになっています。



1-2. 事業の方針と成果

①イベント事業

食事規制を持つ人でも自分の食べられるものを安心して選べる環境をつくるため、多くの人々が集まる「お祭り」や「イベント」における原材料絵文字表示の普及を目指しています。

また将来的には、原材料絵文字表示を表示するだけでなく、食事規制を持つ人たちも食べられる料理を出店する店舗を増やしていきたいという意向から、まず自らがそうした料理を出店し、お祭りにおける「食の選択肢」を広げるためのモデル店舗となり、啓発活動を行いました。

イベント事業に関する 2008 年度の主な成果

■2008 年のイベントへの原材料絵文字表示の普及実績

イベント数： 9 件 （←2007 年実績11件）

■関西最大級の国際交流イベントの実行委員会に加わり、同イベントへの導入が 3 年目となる原材料絵文字表示を全店舗で開催

■活動地域であった大阪府箕面市における年に一度の大規模イベント「箕面まつり」で原材料絵文字表示を全店舗に義務化

イベント事業に関する来年度以降の課題

原材料絵文字表示が正しく行われているかのチェック

イベントやお祭りにおける原材料表示は、出店者の意識でマニュアルに沿って正確に行う店舗／行わない店舗が分かれます。このため、来場者にとってはそれらの情報が正確な判断基準として認識されない場合があります。

*** 来年度の対策 ***

インターナショナルが目指している「社会を変える活動」、すなわち「食という視点をとおして多文化共生社会を全国に普及する活動」について考えた場合、来場者における食事規制保持者の割合が低く、話題性にも繋がらない地域の小規模イベントでは原材料絵文字表示普及の活動を縮小します。ただし、来場者が多く、話題性のあるイベントや、積極的な依頼があるイベントについては今後も活動を継続していきます。また、その場合に出店者にどのように表示の意義を理解してもらい、積極的に正確な原材料表示を行ってもらうための仕組みを整えていきます。

②ピクナビ事業

食事規制を持つ人でも自分の食べられるものを安心して選べる環境を、イベントやお祭り以外の「食のある場」に広げるため、レストランなど飲食店でも原材料絵文字表示を記載したメニューを導入するための事業を行いました。

〈ピクナビ事業のビジネスモデル〉

ピクナビ事業では、まずインターナショナルが飲食店に対し、料理に含まれる原材料の調査についてコンサルティングを行い、原材料絵文字表示の記載したメニューを制作します。

その後その原材料絵文字表示付きメニューを導入した飲食店を Webs サイトで紹介し、食事規制をもった Web サイトを閲覧し、実際にお店を訪れることで事前に食べられる料理を確認し、安心して料理を楽しめます。

ピクナビ事業に関する 2008 年度の成果と来年度以降の課題

2008 年の事業開始に向け、2007 年度は 4 店舗での試験導入を実施し、また 1 店舗での本格導入を実施しました。またデザイナーを外部から募集し、3 名の契約デザイナーを用意しました。2008 年度はミッションの再定義や NPO 法人化の準備のなかでピクナビ事業の進展が遅れ、新規 1 店舗での本格実施にとどまりました。ただこの 1 店舗は「カフェスロー大阪」というメディアにもよく取り上げられる有名なカフェであり、09 年 10 月からの事業開始に向けた布石として評価できます。

③講演・WS(ワークショップ)事業

食事規制をもって日本で生活している人たちが日常生活でどのような不便を抱えているかについて、食事規制のない一般の人にはなかなかイメージが付きにくいものです。そこには、日本は諸外国に比べ「宗教や信条による食事規制」を持つ人がとても少ないことも影響しています。

インターナショナルでは食という視点をとおした「多文化共生社会の実現」を目指し、一般の人たちにも課題を抱えながら生活している人たちの存在について啓発し、多文化共生社会を形成する一員としての意識をもっていただけるよう、講演やオリジナルワークショップを行っています。

講演・WS 事業に関する 2008 年度の主な成果

■2008 年の講演・ワークショップ実績

開催数： 16 件 （←2007 年実績16件）

■2009 年 1 月には、関西におけるインドネシア人コミュニティ「関西インドネシア人協会」からの依頼を受け、日本や世界における原材料表示に関する WS を行いました。インドネシアでは人口の多くがイスラム教徒で食事規制を持っていますが、それ以外の宗教に関する規律について知らない人が多いのも事実です。そのため、これまで行ってきた「一般の日本人」だけではなく、「食事規制をもつ当事者」に対しても日本と世界の現状について啓発を行う機会となりました。

■2009 年 2 月には大阪府箕面市の公立小学校 1 校で、2 日間にわたり 5・6 年生に対する WS を実施しました。まだ異文化に関する知識がほとんどない子どもたちに対し、異なる文化の国で暮らす人々の様子や、そうした人たちが抱えている課題について伝えながら、実際の生活ではどのような意識をもって行動すればいいのかを学びました。

講演・WS 事業に関する来年度以降の課題

専門性を高めた内容の提供

講演・WS 事業ではこれまで、人々の啓発を主目的として行ってきましたが、「多文化共生」に関する様々な WS が溢れる中、今後はより実践的で専門性を生かした精度の高い内容が求められます。そのため、団体の基盤である事業をきちんと回しながらそれらと連動した内容の講演を行ったり、団体をもつ外国人のネットワークを生かし「当事者の声」を常に WS に織り交ぜたりするなどオリジナリティのある構成にしていかなければいけません。

* 来年度の対策 *

オリジナリティのある WS のパッケージを開発し、これまで依頼を受けてきた教育機関や NPO 以外にも、企業等の研修に取り入れることを目指します。

④NASHOL 事業

講演・WS 以外に食事規制をもって日本で生活している人たちの様子を一般の人に伝えるツールとして、フリーペーパーを発行しました。このフリーペーパーのテーマは「食×地域」とし、毎回ひとつの食材をテーマに取り上げ、それにまつわる活動地域(大阪府箕面市)内の農家や個人商店を取材し、地産地消の視点から人々の関心を引き付けながら、「テーマに関する食事規制の話」もコラムとして取り上げ、一般の人々に間接的に社会の課題について認識してもらうことを目的としました。

NASHOL 事業に関する 2008 年度の主な成果

■ 2008 年の NASHOL 発行実績

発行:3 回 (夏、秋、冬号) 発行部数: 各1000部

■ NASHOL では毎回、活動地域 (大阪府箕面市) の特産物をテーマに現地取材を行ったが、その地域にこれまでになかった新しい内容のフリーペーパーとして好評を得ました。

NASHOL 事業に関する来年度以降の課題

□ ソーシャルディープインパクトを意識した活動拠点の移転

インターナショナルでは昨年末に行ったミッション見直しの会議において、活動を通して社会のしくみを良い方向へと「変える」ことを団体の目的とすることを再確認しました。それを踏まえ、これまで活動してきた地域よりもより「社会に影響を与える活動場所」として大阪市内を設定し、事務所と活動拠点を移転しました。これに伴い、地域密着のフリーペーパー『NASHOL』の発行は一時休止となりましたが、今後はエンドユーザーの救済及び一般人の啓発を意識した情報発信の手段を新たに考えていく意向です。